

大里小だより

11月号

令和4年11月9日

第2回 学校運営協議会より

10月28日（金）に第2回目の学校運営協議会を開催しました。

学校・地域・保護者の3者で共有した子どもへの願い【①自分の思いや意見をしっかり話せる②安全に登下校できる③体験から学び育つ】についての取組と現状を確かめることを土台に、様々な意見を交換しました。

学校からは、全国学力・学習状況調査と体力テストの結果、家庭学習を充実させるための「予定帳0（ゼロ）」の取組、学期に2回通学班の点検、通学路の安全対策について市への要望、実施してきた様々な体験活動などの情報を提供しました。

そのあと、出席委員のみなさんからお話を伺い、話し合ったことを紹介します。

いじめ、不登校

委員から、10月27日文科省より発表があった「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」を受け、いじめや不登校について本校の現状はどうかという質問がありました。

いじめのアンケート調査は、各学期に1回行っていること、発達段階から低学年ほどアンケートでの訴えは多いのですが、一つ一つの事例を丁寧に担任が聴き取りをして、関係児童と話をしていることを説明しました。解決していないものがあれば、いじめ対策委員会で対応し、継続観察をしていきます。

本校のような学年1クラスの学校では、児童の居場所が固定化されやすく、それゆえ人間関係に波風を立てないように、気持ちを抑圧してしまいがちになります。いじめが表面化しにくいということを、教職員は心得て、子どもの様子を見ています。

不登校については、中学校に行ってから不安が大きくなってしまった卒業生がいます。原因はそれぞれですが、中学校へ行っても心の支えであり続ける「大里小の仲間」に育て、中学校へ送り出したいと取り組んでいます。

子どものために何をしているのかの情報共有がしたい

大里小 PTA はもちろん、大里地区青少年育成協議会、大里地区子ども見守り隊や自治会も、子どもたちのことを考えてくださっています。

例えば、「通学路徐行」や「ここは危ない遊ばない」の立て札を、PTA 安全対策部・地区委員で点検してもらいましたが、「ここは危ない遊ばない」の立て札は、大里地区青少年育成協議会でも点検してくださっています。「通学路徐行」の立て札についても、通学路の環境が安全かと見回っている中で、気がついた箇所は修理していただきました。

そうやって重なっている活動について、お互いに知ってほしい、協力していきたいという話になりました。

また、PTAとして旗当番を組んで朝の交通安全指導をしています。毎日同じ活動をしてくださっている大里地区子ども見守り隊とPTAが顔を合わせる機会がありませんでした。（※見守り隊の方と子どもたちとは、毎年5月に行う交通安全教室の日に顔を合わせ、子どもたちから感謝の気持ちを伝えています。）今年は、子どもの様子を見て、お互いに連絡を取り合えるように、各地区の見守り隊の方と地区委員さんとで連絡先を交換しました。来年は、PTAの総会の時に見守り隊の方にご出席いただき、会員に毎日活動してもらっていることを知らせると共に、感謝をPTAから伝えてはどうかというご意見がありました。わかり合うことが、協力関係をいっそう強くすると思います。

やりたい気持ちを活用したい

「PTA会員は、何をどうしてよいのかわからないだけで、子どものためにできることは協力したいという気持ちを、みんな持っていると思う。」という話が出ました。例として、運動会后、大勢の方が片付けを手伝ってくださったことが挙げられました。学校やPTAから協力をお願いして、上手に潜在的な力を使ってもらったらいいいのではないかな。

例えば、PTAで8月下旬に廃品回収を行っています。地域にも回覧板で告知して協力してもらっていますが、運動場の除草等の作業についても、地域に呼びかけ、協力できる方に集まってもらったらいいいのではないかなということなんです。

「子どものためにみんなでやろう」ということが広がっていけばありがたいことです。

あなた(親)の時間は、問題じゃない？

毎年お願いしている保護者アンケートですが、今年はQRコードを読み取って、Web上で実施します。（※ご協力をお願いします。児童アンケートも、それぞれのタブレットで実施します。）という紹介をしたところ、委員から、毎年「(子どもの) テレビやゲームの時間にルールを決めているか」というアンケート項目があり、家庭で気をつけてほしいということを学校は伝えているが、親がゲーム等をする時間が子どもにも影響していること、ゲーム等の時間と学力と関係があることを知らせたいというご意見をいただきました。他の委員からも、確かに自分もスマホで何かをしている時間が必ずあると、親の生活を振り返る意見がありました。

ゲーム等によって、直接学力が下がるわけではありませんが、勉強時間や睡眠時間が削られることによる間接的な影響があることは確かです。文科省も、ゲーム等の時間の短さと学力調査の平均正答率との間には相関関係があることが明らかと発表しています。

全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果によると、本校の子（※6年生）は、ゲームや動画視聴やSNS等をしている時間が、全国平均より長いです。また、積極的に家庭での約束を守っている子の割合は、全国平均の半分でした。

ゲーム等を全くしない方がいいかというと、そういうことではありません。家庭でのルールを守れる子は、家庭学習のルールもしっかり守れます。家族が決めるのではなく、自分でルールを決められる子は、自律的に学ぶことができるので、学力が向上します。

親子一緒に、このことについては考えてみてください。

何かあれば、いつでもご相談ください